

3. 取組み事例（1）対象者別事例
②学校—小学生（習志野市）

② 学校（小学生）

| | |
|------|------|
| 市町村名 | 習志野市 |
|------|------|

取組みの具体的内容

講座の基本情報

| | | | |
|---------|--|------|----------------------------|
| 受講対象者 | 小学生（1年生～） | | |
| 受講人数 | 13名 | | |
| 講座開催時間 | 60分 (14:00～15:00) | 開催場所 | 児童館 (あづまこども会館) |
| 開催メイト数 | 5名 | 実施企画 | 地域包括支援センター、 市内キャラバン・メイト |
| ボランティア等 | 市職員、他地域包括支援センター職員、他 | | |
| 使用教材 | <input type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座標準テキスト <input type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座中学生用副読本 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座小学生用副読本 <input type="checkbox"/> 100万人キャラバンDVD | | |
| 独自の取組み | 寸劇、絵本「大好きだよキヨちゃん」、クイズ | | |

※■は使用教材。

カリキュラム

| | |
|-----|--|
| 5分 | 1. はじめに (参加者属性確認・ねらいを伝える) |
| 10分 | 2. 読み聞かせ ○絵本「大好きだよキヨちゃん」 (講座への導入・認知症のイメージをつかむ) |
| 5分 | 3. 認知症って何だろう ○認知症の種類 (認知症は脳の病気であることを理解する) |
| 5分 | 4. 認知症になると起こること ○認知症の脳の記憶 |

3. 取組み事例（1）対象者別事例
②学校—小学生（習志野市）

| | |
|-----|--|
| | （認知症の症状を理解する） |
| 15分 | 5. 認知症になると困ること・対応方法 ○寸劇&クイズ （認知症の人への対応と認知症の人は何もわからなくなってしまう訳ではなく、昔のことや人の気持ちはわかることを理解する） |
| 5分 | 6. まとめ （今日の学習のまとめ） |
| | 7. さいごに （オレンジリング・受講証授与） |

取組みの背景、講座開催のきっかけ

- 地域包括支援センターを事務局にして、圏域内のキャラバンメイトが定期的に会合を開いている。
- 会合では、養成講座の依頼に対応するメイトを決めたり、実施報告をしたり、スキルアップのための情報交換や、「受講してもらいたい」とメイトが考える対象への働きかけや、講座の手法等を話し合っている。
- 今回の講座も、定期会で挙がった案を基に実施したもの。

受講者からの質問、意見等

受講した小学生からの意見

- 認知症はいろんな種類があるんだなあっていうことがわかった。
- 認知症はたいへんだなあ～。
- 認知症の病気が分かってうれしかった。劇も見れてうれしかったけど、クイズに3問とも正解してうれしかった。
- 私のまわりには認知症の人がいないからどんな病気かわからなかったけど、これで少し認知症について分かって良かった。

取組みの具体的効果、成果

- キャラバンメイトの自信になった。
- 小中学生を対象に、学校と協力して開催できないか検討中。

取組み上の課題点、問題点、解決策

<課題>

- 対象に合った講座内容を考えていくことや、メイトが負担感なく、参加できる

3. 取組み事例（1）対象者別事例
②学校—小学生（習志野市）

仕組みづくり。

- キャラバンメイトのスキルアップと養成の強化。

<取組中>

- 圏域ごとに、キャバンメイト同士が交流・スキルアップできる場づくりの支援を市全体に広げるべく支援している。

<今後の活動>

- 認知症サポーター養成講座を地域づくりのツールの一つとして活用と考えている。

問い合わせ先

【事務局】

習志野市高齢者支援課高齢者福祉係

TEL：047-451-1151 / FAX：047-453-1825

認知症キッズサポーター講座

| | | |
|-------------|---|-----------------------|
| 2:00 5分 | はじめに（ ） ・おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に住んでいる人いますか？ ・近所におじいちゃん・おばあちゃんがいる人は？ ・「認知症」という言葉をきいたことがある人は？ ・今日は「認知症」って何だろう、「認知症」の人が皆さんの身の回りにいたらどうすればいいのかな、ということ、一緒に考えましょう！ | <参加者属性確認・ねらいを伝える> |
| 2:05 10分 | 1. 読み聞かせ 絵本「大好きだよキョちゃん」 | <講座への導入・認知症のイメージをつかむ> |
| 2:15 5分 | 2. 認知症って何だろう 画用紙<認知症は脳の病気であることを理解する> ・認知症の種類 テキスト P3 | |
| 2:20 5分 | 3. 認知症になると起こること ビー玉 ・認知症の脳の記憶 テキスト P4 | <認知症の症状を理解する> |
| 2:25 15分 | 4. 認知症になると困ること・対応方法 寸劇&クイズ (MC: おばあちゃん: タケシ:) <認知症の人への対応と認知症の人は何にもわからなくなってしまう訳ではなく、昔のことや人の気持ちはわかることを理解する> | |
| 2:40 5分 | 5. まとめ（ ） ①認知症は病気。治る認知症もあるし予防もできる。病院へ行こう ②認知症の人は何もできない・わからないのではなく、昔のことは覚えてい るし、人の気持ちはわかります。 ③だからおじいちゃん・おばあちゃんたちに怒ったりしないでね。 | <今日の学習のまとめ> |
| 2:45 | さいごに（ ） オレンジリングを探せ！ ・おうちに帰ったら今日の話を家族の人にも教えてあげてください。 ・オレンジリングは「認知症サポーターのしるし」です。 特別なことをする人ではありません。身近にいるお年寄りをあ たたく見守ろう！ | <オレンジリング・受講証お渡し> |



3. 取組み事例（1）対象者別事例
②学校—小学生（習志野市）

地域福祉啓発講座（認知症サポーター養成講座） 企画書

| | |
|-------|--|
| 対 象 | 市内在住の小学生（主に1年～3年生） 20～30人程度 |
| 開催日 | 平成24年11月10日（土） 午後2時～2時45分（45分間） |
| 開催場所 | あづまこども会館 3階 |
| 講師 | ロバの会会員（屋敷・大久保地区キャラバンメイト） |
| 講座の目的 | 1 認知症についての理解 2 認知症の人を地域で見守っていく役割を知る |
| 講座の内容 | 1 ねらいを伝える 2 認知症のイメージをつかむ（読み聞かせ） 3 認知症の理解（教材使用） 4 認知症の人への対応を考える（寸劇・クイズ） 5 まとめ（オレンジリング） |
| 手法 | ・小学生用テキスト ・絵本『大好きだよキヨちゃん』（クリエイツかもがわ） ・講座用教材 講座終了後、オレンジリング及び受講証の配布 |
| 特記事項 | <p>広報掲載・ポスター掲示</p> <p><小学生が認知症を理解することの意義></p> <p>核家族化により祖父母等と同居する家庭が減少し、高齢者とのつきあい、特に認知症の人と接する経験を持つ子どもたちは少ない。</p> <p>小学生にとって認知症の人の介護や具体的な支援をすることは現実的には難しいが、認知症について理解すれば温かい目で見守ることや、ちょっとした手助けは可能である。</p> <p>超高齢社会の担い手となる子どもたちにとって高齢者や認知症の人について理解することは今後の社会生活に有益である。</p> <p>また、まちづくりにおいて高齢者と子どもたちが安心して暮らせる施策については共通する部分もある。</p> |

3. 取組み事例（1）対象者別事例
②学校—小学生（習志野市）

平成24年11月10日（土）2～3時
あづまこども会館で、受講したこどもたちは
認知症キッズサポーターになりました！
参加児童（7～13歳 13名）

認知症キッズサポーター
講座開催☆ あづまこども会館

わたしたちの習志野市でも、高齢化・核家族化がすすみ、
地域のつながりは課題となっています。

地域全体で認知症の人や家族を支えていくためには、
大人だけでなく子どもたちも高齢者のことや認知症に
ついて学ぶことが重要です。

一人ひとりの力は小さくても、みんなが変われば大きな
力になります。



今日のまとめはコレ！

- ① 認知症は脳の病気です。なるべく早く病院へ行きましょう。
- ② 認知症の人は何もできない・わからないのではなく、昔のことは覚えているし、人の気持ちはわかります。
- ③ だから、おじいちゃん・おばあちゃんたちにやさしくしてね。
- ④ 今日のお話をうちの人も教えて下さい。

参加してくれたおともだちの感想（一部抜粋）

認知症はいろんな種類があるんだなあっ
ていうことがわかった。

認知症はたいへんだなあ～。

認知症の病気のことが分かってうれし
かった。劇も見れてうれしかったけど、ク
イズに3問とも正解してうれしかった。

私のまわりには認知症の人がいないからど
んな病気かわからなかったけど、これで少
し認知症について分かって良かった。

3. 取組み事例（1）対象者別事例
②学校—小学生（習志野市）

ぼくは認知症は様々な原因で脳の細胞が死んでしまったり働きがわるくなったりすることがわかったので、ならないようにしたいし、もし認知症になった人がいたら優しくおしえてあげたいと思いました。そして、今日習ったことを家にいる人にも教えたいと思いました。

いむふむ、なるほど！講座の内容

- ・読み聞かせで、認知症のイメージがつかめました。
- ・脳の図でわかった！認知症は病気なんだね。
- ・認知症の人の「記憶」と元気な人の「記憶」はどこが違う？
- ・寸劇&クイズで、困ること・対応方法を学びます。



キャラバンメイトさんの感想 ～どうだった？ ドキドキしたね～。

- ・「認知症」という言葉を聞いたことがある子どもが半数。やはり身近な話題なのかな。
- ・積極的に答えてくれたり、読み聞かせも静かに聞いてくれた。反応が良くてうれしいね。
- ・子どもも地域の一員。地域に根ざした活動で、認知症サポーターを普及できるといいな。

キャラバンメイトとは、認知症の正しい知識をみなさんに伝えるボランティアです。国の標準カリキュラムに基づく養成講座を受講し、認知症サポーター養成講座の講師をしています。



受講者したおともだちには
こんなおみやげがあります☆

あづまこども会館のみなさん
ご協力ありがとうございました。

認知症サポーター養成講座は

認知症を正しく理解し、サポーターとして何ができるかなどについて学びます。認知症の人や家族を暖かく見守る応援者が増えて、認知症の方も安心して暮らしやすいまちをめざして行う講座です。学校や自治会、グループ（およそ5名以上）で受講を希望される場合は、ご相談ください。

お問い合わせ 高齢者支援課 電話:047-454-7533 FAX047-453-1825



3. 取組み事例（1）対象者別事例
②学校—小学生（君津市）

| | |
|------|-------|
| 市町村名 | 君 津 市 |
|------|-------|

取組みの具体的内容

講座の基本情報

| | | | |
|--------|--|------|----------|
| 受講対象者 | 小学生（全校生徒）・教師 | | |
| 受講人数 | 456名 | | |
| 講座開催時間 | 60分 （低・高学年、各60分） | 開催場所 | 小学校体育館 |
| 開催メイト数 | 6名 | 実施企画 | 受講者からの依頼 |
| 使用教材 | <input type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座標準テキスト <input type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座中学生用副読本 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座小学生用副読本 <input type="checkbox"/> 100万人キャラバンDVD | | |
| 独自の取組み | 寸劇、紙芝居（大型） | | |

※■は使用教材。

カリキュラム

- 本講座は、全校生徒を対象に行った。
- 小学1年生と6年生では理解度に幅があるため、低学年と高学年の3学年ずつに分けて講座を実施した。
- 高齢者や認知症をイメージしやすいよう、寸劇を用いた。

（寸劇）

- （1）「お財布がない編」
- （2）「徘徊編」
- （3）「朝ごはんを食べていない編」

家族の中で認知症のおじいさん・おばあさんがいた場合を想定し、『お財布がない編』『徘徊編』『朝ごはんを食べていない編』の3つのテーマを取り上げ、家族（孫）の立場としてどのような対応が望ましいのか望ましくないかをいくつかおりましたバージョンで寸劇を行い、子どもたちと一緒にどのような対応が望ましい対応といえるのか検討していく。

工夫点・特に気を付けていること

＜講座の中で工夫した点＞

- （1）現在、核家族化が進む中で、自宅で祖父母と住む子どもたちも少なくなっている。そのためどのような方法であれば子どもたちが高齢者や認知症をイメージすることが出来るのか考え、寸劇を用いた。
- （2）また認知症の正しい知識の理解を促すために、テキストだけでなく大型の紙芝居を使用することで、子どもたちが視覚的にもわかりやすいように工夫し、子どもたちがわかりやすい言葉を使うことで認知症を身近に感じてもらうようにした。
- （3）小学生全校生徒を対象に行うということで理解度に幅があることが予測されたため、低学年と高学年で講座を分けて行った。

取組みの背景、講座開催のきっかけ

人権週間の一環として、高齢者や認知症について理解することを目的に全校生徒を対象とした講座を行いたいとの要望があった。

取組みの具体的効果、成果

地域で見守り支える目として、子どもたちが認知症サポーターになったというだけでなく、高齢者とは認知症とはどういうものなのかをより身近に感じてもらうことができた。

また開催校の担当者より『さっそくサポーターリングを付けて帰る児童もいた』との話もあった。

問い合わせ先

【事務局】

君津市高齢者支援課地域包括支援室

TEL：0439-56-1732 / FAX：0349-56-1737

3. 取組み事例（1）対象者別事例
②学校—小学生（印西市）

| | |
|------|-------|
| 市町村名 | 印 西 市 |
|------|-------|

取組みの具体的内容

講座の基本情報

| | | | |
|---------|--|------|-------------|
| 受講対象者 | 小学生（印西市内小学校7校3～6年生） | | |
| 受講人数 | 約356名 | | |
| 講座開催時間 | 95分 | 開催場所 | 小学校（印西市内7校） |
| 開催メイト数 | 3-5名程度/回 | 実施企画 | 印西市 |
| ボランティア等 | 市内ボランティア「若返り軍団9名」 NPO法人 秋桜劇団 | | |
| 使用教材 | <input type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座標準テキスト <input type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座中学生用副読本 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座小学生用副読本 <input type="checkbox"/> 100万人キャラバンDVD | | |
| 独自の取組み | 創作劇、高齢者疑似体験、グループワーク | | |

※■は使用教材。

カリキュラム

| | |
|------|--|
| 2～3分 | ○あいさつ 【小学校】 |
| 5分 | ○講座についての説明 【市担当者】 |
| 15分 | ○創作劇観賞 【市民ボランティア「若返り軍団」】/NPO法人秋桜 秋桜劇団 |
| 15分 | ○講話1 「認知症って何だろう？ 認知症になるとおこること」 「認知症の方との接し方」 【キャラバン・メイト A】 |
| 5分 | ○休憩 |
| 20分 | ○高齢者体験モデルを身体につけてみよう！ 【市担当者/キャラバン・メイト B】 |

3. 取組み事例（1）対象者別事例
②学校—小学生（印西市）

| | |
|---|---|
| 20分 | ○グループワーク 「認知症サポーター 私たちに出来ること」 （※グループまたは全体で討議） 【キャラバン・メイトA・B】 |
| 8分 | ○まとめ 【市担当者】 |
| 2分 | ○終了のあいさつ 【小学校】 |
| <p>①市民ボランティアによる寸劇 ②高齢者疑似体験セットを組み込んだ講座 ③グループワークによる「認知症サポーター私たちに出来ること」</p> <p><講座のねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 認知症は脳の病気であるという事がわかる。 ● 認知症の方とのかかわり方がわかる。 ● 高齢者の身体の変化を通して労わる心が育つ。 | |

工夫点・特に気を付けていること

| |
|--|
| <p><工夫した点></p> <p>① <u>市民ボランティアによる寸劇</u> 市のボランティアクラブに登録されている、市民ボランティアに声をかけ、寸劇の部分を担っていただいた。自分たちもサポーターになっていただき、認知症について正しく理解したのち、脚本もメイトさんたちと一緒にオリジナル作品を作り上げた。</p> <p>② <u>高齢者疑似体験セットを組み込んだ講座</u> 今回は希望する学校を募集する形だったが、応募理由の多くが、授業の環境として行う上で、「高齢者の理解」という事があるので「体験セット」の実習が組み込まれていたためとあった。認知症のみならず、高齢者全体の理解に範囲を広げたことで学校側の協力も得られやすいと考えた。</p> <p>③ <u>グループワークによる「認知症サポーター私たちに出来ること」</u></p> <p>④ <u>終了後学習のまとめや各学校の取り組みを模造紙に貼りフィードバックした。</u></p> <p>⑤ <u>始めて取り組むメイトも多かったので、共通台本を作成し、参加する部分をAメイトおよびBメイトと役割分担した。</u></p> |
|--|

取組みの背景、講座開催のきっかけ

- 印西市では平成 22 年・23 年度と「町づくり交付金補助金」を受けて、印西市小林地区にある小学校 2 校・中学校 1 校において、認知症サポーター養成講座を「NPO 法人秋桜」に委託し実施した。
- 寸劇を組み込んだ講座は各方面から大変好評をいただいた。そのため、市内全域に広めたいと考えた。
- しかし補助金の終了により財政面での拠出が厳しくなり、事業存続が厳しくなったため、市民ボランティアを巻き込んだ活動に変更し 24 年度は実施している。

受講者からの質問、意見等

「認知症と物忘れの違いが分かりにくい。」

取組みの具体的効果、成果

アンケートより

- 今まで認知症ということがわからなかったけれど、認知症の人への接し方がわかった。
- お年寄りや障害のある人の思いや私たちが認知症の事をよく知ることでそういった人たちの役に立ちたいです。
- 認知症だからと特別扱いせず、みんなと同じようにそばで支えることが大切だと思った。もし近くに認知症の人がいたら声をかけていきたい。

取組み上の課題点、問題点、解決策

- ボランティアの確保。メイトの確保
- 開催時期が集中するため、時期をずらして開催。
- 学年ごとの発達の違いでグループワークの進め方も異なるので工夫が必要。

問い合わせ先

【事務局】
印西市印西地域包括支援センター
TEL：0476-42-5111
FAX：0476-40-3881



印西市マスコットキャラクター
いんざい君